

令和5年(2023年)

02月28日

第 784号

発行

学校法人文京学院

<https://www.bgu.ac.jp>



〈本校キャンパス〉

文京学院大学人間学部

/大学院/文京学院大学ふじみ野幼稚園

〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196

☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉

文京学院大学女子高等学校

文京学院大学女子中学校

〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3

☎幼 03-3813-3771

☎03-3946-5301

本学院生が幅広い分野において外部の大会に出場し、研究発表を行い様々な賞を受賞する成果を収めました。

高校

サイエンスキャッスル2022関東大会で「優秀賞」と「慶應義塾大学薬学部賞」をW受賞

2022年12月3日、「サイエンスキャッスル2022関東大会」が開催され、箕浦祐璃さん(2梅)が参加しました。サイエンスキャッスルは、株式会社リバネス主催の中高生の多様な研究が集まるアジア最大級の学会です。生徒達はサイエンスキャッスルを研究発表の場として、また他の研究を行っている生徒と交流する場として、さらに専門性の高い企業・大学・他校の先生方と繋がる場としても活用しています。

サイエンスキャッスルは、「口頭発表」と「ポスター発表」という2つの部門に分か

れており、今回の総演題数は101件でした。箕浦さんは、研究テーマ「紅色素の緑色光沢形成に墨が与える影響の調査」で、口頭発表部門に参加しました。本校からの口頭発表部門参加は初となります。箕浦さんは、オンライン審査を通過し、口頭発表の12テーマの1つに選出され、優秀な研究として「優秀賞」を受賞しました。また、「優秀賞」の受賞だけではなく、慶應義塾大学薬学部の熊谷直哉教授より「慶應義塾大学薬学部賞」も受賞することができました。

高校

JSEC2022で「協賛社賞(ソニー賞)」受賞 米国開催の国際学生科学技術フェア(ISEF)への出場権利を獲得

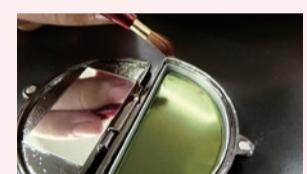
2022年12月11日・12日の2日間、日本国内最高峰の科学自由研究大会である「JSEC2022」(第20回 高校生・高専生科学技術チャレンジ) / (朝日新聞社、テレビ朝日主催) の最終審査会が開催され、箕浦祐璃さん(2梅)と光吉音葉さん(2梅)が出場しました。

JSECは、日本の科学技術水準の向上を目的に、全国の高校生と高等専門学校生を対象に2003年に始まった科学技術の自由研究コンテストです。過去出場者の中には、世界で活躍する科学者、技術者も多く輩出しています。幅広い分野から研究作品を募り、専門家による審査の結果で、上位入賞者には「国際学生科学技術フェア(ISEF)」の出場権利も与えられます。

今回は、様々な研究カテゴリーから過去最高の339テーマの応募があり、予備審査と1次審査でそのうちの30テーマに絞られ、日本科学未来館(江東区)で最終審査会が行われました。箕浦さんと光吉さんの研究は、「赤い紅の『見える緑』『見えない緑』『光る緑』~墨を用いて紅の緑色光沢を生み出す伝統的な手法の解析~」というタイトルで、江戸時代に流行した紅と墨を用いた化粧法の解析についての発表を行いました。有名大学の先生やJSEC協賛企業の社員の方々による個別の審査を15分×7回、時間フリーの自由審査を40分×2回という厳しい審査の結果、上位8賞の1つである「協賛社賞(ソニー賞)」を受賞しました。また、2023年5月に米国で開催される「国際学生科学技術フェア



JSEC2022最終審査会・表彰式



実験に用いた伊勢半本店の小町紅



実験を行う光吉さん(左)と箕浦さん(右)

(ISEF)」への出場も決定しました。

箕浦さん、光吉さん、指導教員の岩川暢澄教諭からのコメントを以下に掲載します。

箕浦祐璃



文京学院に入学するとき、「探究活動がしたい!」と思って入学しました。それが今、自分だけではなく仲間と一緒に研究をして、多くの人に支えられ、いろんな方に評価していただけるようになりました。本当に幸せです。また、この研究を始める前の私と今の私を比べて成長したと思えるようになりました。その過程では勿論苦しいことも多くありました。それでもこの研究をはじめて良かったと思っています。これから先、この研究の発展と共に、自分もより成長していきたいです。

光吉音葉



学ぶ楽しさ、通学できることの幸せ、大切な仲間の支えを高校生活で感じながら、この研究を進めることができました。中学生の頃の私には、まさかここまで研究を楽しみ、さらにこんな成果をあげられるなんて想像もできませんでした。楽しいことばかりではない人生でしたが、高校入学は胸を張って生きるために第一歩だったのだと今感じています。

岩川暢澄教諭



この研究を含め3組のファイナリストを本校は輩出しています。今回は初の上位入賞で、指導者として非常に嬉しく思います。かつてJSECに挑戦した卒業生からもお祝いの言葉をいただきまして、これまでに積み重ねてきた学校としての経験が、この成果に結びついたと考えます。私の教員としての夢がJSECで上位入賞する生徒を輩出することでしたので、次なる目標を立て生徒の良き伴走車として活動を充実させていきたいです。

大学

第7回アカウンティングコンペティション 経営学部生が「優秀賞」「審査員特別賞」受賞

2022年12月18日、第7回アカウンティングコンペティションが開催され、学術的研究分野において、経営学部高橋円香准教授のゼミから3年生の平山未結さんが「優秀賞」を受賞しました。また、中島真澄教授のゼミからは、3年生と4年生混合の「チームC」、4年生の「チームD」の2チームが「審査員特別賞」を受賞しました。

アカウンティングコンペティションは、2016年に創設された会計分野における大学生の研究発表大会です。第7回を迎える今回は、24大学、31ゼミ、76チームが学術的研究分野と実践的研究分野に分かれて研究成果を競いました。尚、中島ゼミは本大会で3年連続の受賞となりました。本学の受賞学生を以下に掲載します。

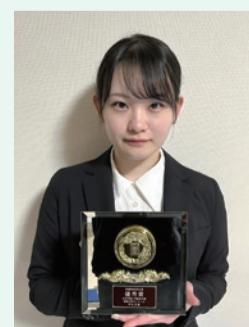
優秀賞

平山未結(経営学部3年)

テーマ

不正会計検出モデルの精度向上に関する試案～SMOTEによるデータ拡張を用いて～

この度は、優秀賞を授与していただき大変光栄に思います。また、コンペティションへの参加を快く後押し、ご指導いただきました高橋先生をはじめ、これまで貴重なご助言をいただきました小松先生と藤田先生に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。本受賞を励みに、今後も有意義な研究を行えるよう精進してまいります。



「優秀賞」を受賞した平山さん

審査員特別賞

「チームC」

池田翔真(代表者・経営学部3年)・藤津明日香(経営学部4年)

テーマ

KAM開示は監査の質および開示理由と関連しているのか?情報通信産業に焦点を合わせて

「チームD」

氏家弘海(経営学部4年)

テーマ

TONEは、将来業績を予測可能か?

日本における製造業に関する実証



「審査員特別賞」副賞

大学 株式会社シード×経営学部でSDGs活動 コンタクトレンズの空ケース回収活動と 「すごろく」の採用

経営学部の馬渡一浩教授のゼミで、廃プラスチック問題についての研究を行う3年生6名により、コンタクトレンズの製造販売を行う株式会社シードと連携したSDGsの取り組みが行われました。

今回、学生たちは、本郷キャンパス内に学生オリジナルのブリスター（コンタクトレンズの空ケース）回収箱を設置し、約1.5kgを回収（2022年11月18日時点）。回収箱には、回収量が増えるにつれて隠れていた絵が浮き出てくる仕組みを施しました。また、同世代である大学生にこの活動を知ってもらうため、SNSを活用し、学生自身が積極的にプラスチック問題について学び、取り組んだことについて発信しています。

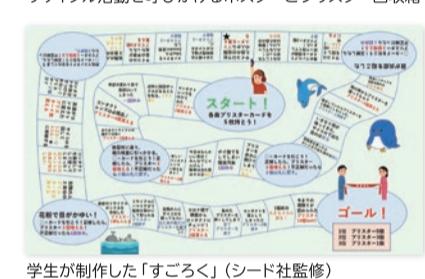
さらに、未だコンタクトレンズの空ケースのリサイクル率が低いことを知った学生が、身近にできるリサイクル活動として社会へ啓発を行うため、近年流行しているボードゲームの一つである「すごろく」の制作を提案し、シード社に採用されました。この「すごろく」は、シード社の環境施策の一つである「BLUE SEED PROJECT」（使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収し、物流パレットとして半永久的に再製品化しづげる活動）をモチーフとしており、環境問題やサーキュラーエコノミーについて楽しみながら学ぶことができます。



馬渡教授（右）とプロジェクトメンバー学生たち

代表者 櫻井彩人（経営学部3年） 学生コメント

ヒアリング調査としてシード社に伺い、コンタクトレンズ空ケースのリサイクルをより身近な存在としてイメージしてもらうため、私達が制作した「すごろく」のアドバイスもいただきました。また、研究を進めていく中で、さらにこの活動を普及させたいと考えた結果、シード社のウェブサイトに掲載させていただけることになりました。この活動が世間に知りてもらえることは大変うれしく思います。普段企業の方と関わる機会がないので、今回は学生目線と企業目線の双方の意見を交わし合えたことが良い経験になりました。



学生が制作した「すごろく」（シード社監修）

大学 ウクライナへの想いを馳せて 1200個の椿ランタン「点灯式」を実施

経営学部長期フィールドワーク授業の一環として、「AnimeJapan椿班」による、地域の復興や活性化をランタンに願う「椿ランタンライトアッププロジェクト」が今年も行われ、戦争がいまだ続くウクライナへの平和を願い、ウクライナの国旗を表現した1,200個の学生手作りのランタンが、本郷キャンバスショールームで展示されました。2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻から始まり、世界は悲しみに溢れ、連日心が痛むニュースを目にすることになりました。この出来事で傷ついた人々を、学生の創造力で少しでも元気づけられないかと考え、作り上げられたのがウクライナ国旗の青と黄色のライトアップ展示です。

2022年11月11日、本郷キャンパスにて、在日ウクライナ大使館より三等書記官イナ・イリナ氏を招き、椿ランタン「点灯式」が実施されました。式には、文京区役所から3名、順天堂大学より1名、同大学ウクライナ留学生5名、本学留学生、島田昌和院長・理事長、櫻井隆学長、そして前年度よりプロジェクトに賛同・支援をいただいているジャズバンド「Fontana Folle」のYuki Lee氏が参加、平和を願う心を一つにし、執り行うことができました。

また、「点灯式」実施にあたり、成澤廣修文京区長からの動画メッセージや、Lee氏からのジャズ楽曲提供という素敵なお申出もいただき、美しいランタンの揺らぎと、若く透明感に満ちたジャズのサウンドが溶け合う空間で、出席者全員がウクライナはもとより全ての人が平和でいられる世界を願いました。



椿ランタン「点灯式」に参加した来賓と本学関係者

大学 「マッスルプロジェクト」 大学祭での公演売上金を ふじみ野市へ寄付

2022年11月8日、「マッスルプロジェクト」を代表して、保健医療技術学部理学療法学科3年の新井雅勝さん、上田菜月美さん、日吉愛佳さんがふじみ野市役所を訪問し、大学祭での公演チケットの売上金25,100円の寄付を行いました。当日は、高畠博市長との懇談会も実施され、普段のマッスルプロジェクトの活動や、今後のふじみ野市との関わりなどについて意見交換を行いました。

「マッスルプロジェクト」は、2006年に保健医療技術学部を開設した当初から、同学部生たちが自主的に始めたパフォーマンスで、先輩から後輩へと伝統プロジェクトとして引き継がれ、現在はサークルとして活動を行っています。パフォーマンス披露は、年1回、大学祭内の公演を行っており、大学祭当日には、地域住民をはじめ、近隣エリアからも観客が来場する名物イベントとなっています。

マッスルプロジェクトからふじみ野市への寄付は、2019年度に続き2回目となり、寄付金は学生の希望であるふじみ野市の社会福祉サービス向上のためにご使用いただく予定です。今後もサークル活動をはじめとした学生の取り組みを通して、地域との交流を深めています。



大学 レイクランド大学ジャパン・キャンパスとの 英語プレゼンテーションコンテスト開催

2022年11月16日、本郷キャンバス仁愛ホールにて、レイクランド大学ジャパン・キャンパスとの合同英語プレゼンテーションコンテスト「2022 LUJ×BGU PRESENTATION CONTEST」が開催されました。

今回のコンテストは、本学外国語学部1年次必修科目「初年次セミナーb」の一環として行われ、「The future is... (未来)」をテーマに、両大学で選抜された学生10名が登壇しました。本学外国語学部の鶴浦裕学部長・教授とレイクランド大学ジャパン・キャンパスのPaul Snowden教授が審査員を務め、両校の学生が“plastic pollution”、“metaverse”など、未来に関する様々なタイトルで交互に熱のこもったスピーチを展開しました。コンテストは、審査員によって「第1位」から「第3位」が決定、さらに、会場にいた学生の投票で「Best of BGU」、「Best of LUJ」が選出されました。本学の受賞学生のコメントを以下に掲載します。



【第2位】

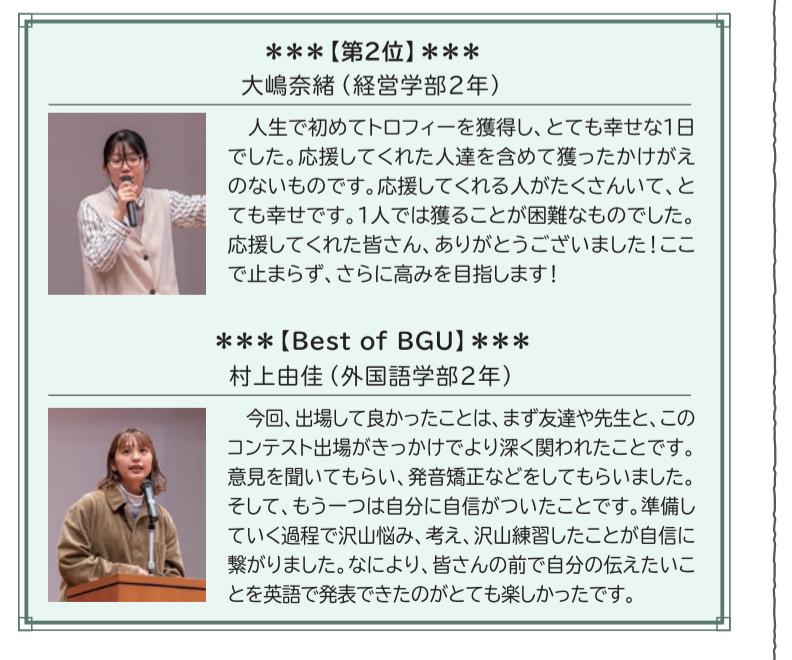
大嶋奈緒（経営学部2年）

人生で初めてトロフィーを獲得し、とても幸せいな日でした。応援してくれた人達を含めて獲ったかけがえのないものです。応援してくれる人がたくさんいて、とても幸せです。1人では獲ることが困難なものでした。応援してくれた皆さん、ありがとうございました!ここで止まらず、さらに高みを目指します!

【Best of BGU】

村上由佳（外国語学部2年）

今回、出場して良かったことは、まず友達や先生と、このコンテスト出場がきっかけでより深く関わることです。意見を聞いてもらい、発音矯正などをもらいました。そして、もう一つは自分に自信がついたことです。準備していく過程で沢山悩み、考え、沢山練習したことが自信に繋がりました。なにより、皆さんの前で自分の伝えたいことを英語で発表できたのがとても楽しかったです。



各キャンパスでは今年も対面やオンラインで様々なプログラムが実施されました。

ORIGINAL EVENT

大学 「キャリアでっぷんフォーラム」開催

本学の卒業生や、就活を終え内定を得た4年生が、後輩たちに働く意味や内定獲得までの実体験を伝える「キャリアでっぷんフォーラム」が、各キャンパスで開催されました。

2022年11月16日、一般企業で活躍中の卒業生4名が、学生時代の話から自身の就活体験談、現在の仕事内容、仕事に対する想いなどについて在学生に伝えるための講演が行われました。同フォーラムを企画・運営したキャリアでっぷんフォーラム学生実行委員長の佐々木野乃さん（人間学部心理学科3年）から次のコメントが寄せられました。

「キャリアでっぷんフォーラムは、就職活動をするにあたり、大きな一歩を踏み出すためのヒントを得る場となっています。今回は3年ぶりの対面開催となりました。これから就職活動に挑む皆さんの中には、不安や焦りといった悩みを抱えている方もいらっしゃると思います。先輩方の貴重なお話を聞き、そんな悩みを就職活動のための力に変え、今後の活動に役立てていただければ幸いです」

佐々木さん

〈発表者〉

アズフィット株式会社 伊藤わかな様（2020年3月人間学部心理学科卒業）「なりたい自分を考える」
株式会社ブリケン 大塚瞳様（2022年3月人間学部児童発達学科卒業）「就職の軸を意識する」
株式会社オフ・ザ・プラネット 門脇里菜様（2020年3月人間学部人間福祉学科卒業）「不安な気持ちを乗り越え自信につなげる」
グルーヴ・ギア株式会社 岡本聖那様（2014年3月人間学部心理学科卒業）「データに基づいて考える習慣をつける」

本郷
キャンパス

2022年11月30日、内定を得た4年生4名による就活体験談の講演が行われました。講演後は第2部として、就職活動に関するパネルディスカッションが開催されました。同フォーラムを企画・運営したキャリアでっぷんフォーラム学生実行委員長の青柳凜音さん（外国语学部2年）から次のコメントが寄せられました。

「3年ぶりとなる対面での開催となりました。就職活動を終えた先輩方が、私たち後輩に向けて、就活における様々な情報やエールを発表いただきました。発表者の4名の先輩方は、それぞれ違う学部だったため、異なる内容の発表にとても興味を持つことができました。また、今回はパネルディスカッションも行いました。達成感があったことなど、これから就活をする私たちだからこそ知りたい質問に、とても役立つ回答をいただきました」

青柳さん

〈発表者〉敬称略

トヨタカローラ新埼玉株式会社（小売） 渡部凌太（人間学部人間福祉学科）「ピンチをチャンスに」
ユーヤックシステム株式会社（IT） 長廣陽香（人間学部コミュニケーション社会学科）「就職活動を振り返って」
日本システム開発株式会社（IT） 清水真佳（外国语学部）「就勝～成長した、わたし～」
大和ハウスリアルティマネジメント 株式会社（不動産） 大久保秀晃（経営学部）「後悔のない大学生活を」

大学 「ゼミナルオープン大会」開催

2022年12月3日、「ゼミナルオープン大会2022」が、開催されました。同大会は、経営学部生で構成する「ゼミナル協議会」が主催しており、今回は経営学部10ゼミから46チーム、220名の学生が参加しました。

社会課題を明確にし、解決策を提案する「プレゼン部門」には、27チームが5つのブロック（A~E）に分かれて参加。また、ゼミで研究しているテーマでの実証研究や事例分析を発表する「研究部門」には、19チームが4ブロック（F~I）に分かれて参加しました。参加学生は日頃の研究成果を存分に発表し、次のチームが「優秀賞」を受賞しました。

優秀賞 ***【プレゼン部門】***

Aブロック：池田ゼミ2年 ハラルJAPAN
「ハラル料理店は何故日本で普及しないのか」

Bブロック：馬渡ゼミ2年 ブルーム
「ルミエール・ビバン～多世代交流の場を通じた人々の関係作り～」

Cブロック：川越ゼミ3年 川越唐棧
「川越唐棧を使用したホテルの館内着の企画」

Dブロック：馬渡ゼミ3年 ちーはん
「献血に行こう！」

Eブロック：馬渡ゼミ3年 ぴった班
「私はどんな気持ち?」マスクをつけた子供たちが伝わりやすいコミュニケーションを実現させるために。」

【研究部門】

Fブロック：新田ゼミ3年 SKS
「化粧品における口コミの構成要素の解明」

Gブロック：高橋ゼミ3年 Dグループ
「会計基準変更による利点と課題について」

Hブロック：新田ゼミ3年 みる心いゆ
「若者にとってのレバ要素とは? -ソーシャルジアを感じるレバ要素の解説-」

Iブロック：高橋ゼミ3年 たまちゃんふあん俱楽部
「コロナ禍における監査業務の変化 -リモート監査導入の影響-」

ゼミナル協議会長の横田速士さん（3年）から、大会を振り返って次のコメントが寄せられました。

「本年度も、Zoomを用いたオンライン形式でオープニング大会が開催されました。開催にあたりご協力いただいたゼミナル協議会顧問の高橋円香先生をはじめ、審査員の皆様、大会進行を務めていただいた議長団の皆様、そして発表を行った参加者の皆様に、心から感謝申し上げます。」

取り組んだ研究を発表できる場があるのは当たり前の環境ではないと、私自身も参加者として感じました。大会運営者・参加者の両面で、非常に有意義な経験となりました」

中学 クリスマスコンサート開催

2022年12月17日、駒込キャンパスジャシホールにて、「中学クリスマスコンサート2022」が開催されました。第2回となる今年は、中学3年生の実行委員を中心に行なわれました。サプライズで先生方にによるハンドベルの演奏があり、生徒のように一生懸命な先生の姿に笑いあり拍手ありの大盛り上がりの中、シンサートがスタート。真っ暗になったホールにベンチライトの光が流れ、実行委員が制作したオープニング動画とともに1曲目の「くるみ割り人形」が演奏されると、盛大な拍手が送られました。その後も、楽しい司会のおかげで次々とプログラムが進み、器楽合奏・合唱・ギター演奏・ハンドベル演奏と様々な音楽が繰り広げられました。後半は振り付けやダンスも加わり、3年生による「シングシングシング」のアンコールで幕を閉じました。午後は保護者の方をお招きし、演奏を披露しました。震えるほど緊張しながらも、一生懸命に表現しようとする中学生の姿に、保護者の方も笑顔で温かい拍手を送ってくださいました。



ギターに挑戦した生徒たち



クリスマス衣装で演奏する生徒たち

大学 「文京オレンジデーキャンペーン」 に賛同し、啓発活動を実施

本学では、文京区が推進する女性に対する暴力撤廃を呼びかける活動「文京オレンジデーキャンペーン」に賛同し、2016年より毎年積極的に啓発活動を行っています。

「文京オレンジデーキャンペーン」は、文京区がUN Women（ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関）と協力し、毎年11月25日「女性に対する暴力撤廃の国際デー」から12月10日「世界人権デー」までの16日間実施されています。

2022年11月25日と12月2日の2日間、外国语学部甲斐田万智子教授のゼミナルに所属する学生と、同学部の学生が参加して、暴力のない明るい未来を象徴する色「オレンジ」をシンボルカラーとしたチラシや啓発グッズの配布などを実施しました。学生たちは、世界中の女性への暴力の実態を知り、それを伝え、女性に対する暴力をなくそうとする活動を今後も展開していきます。



甲斐田教授（後列右）と実施学生たち

大学

経営学部3年生が難関国家資格試験に挑戦 「中小企業診断士」第2次試験に合格

2023年2月、経営学部中島真澄教授のゼミに所属する吉田翔太さん（3年）が、難関国家資格試験である「中小企業診断士」試験の第2次試験に見事合格しました。

「中小企業診断士」は、中小企業の経営課題に対応するための診断・助言を行う専門家で、法律上の国家資格です。

2022年度の試験受験者20,212人の内、第2次試験合格は1,625人で全体の約8%となります。さらに、学生の合格者は27名のため、今回の合格は大変輝かしい結果となりました。（中小企業診断士として正式に登録するためには、実務補習を修了する必要があります。）

吉田さんへのインタビュー内容を掲載します。

Q 中小企業診断士を目指した理由は何ですか？

A 私は大学受験に失敗し、一浪して本学に入学しました。大学受験に失敗した理由は、私自身の努力不足という一言に尽き、大学在学中に何か一つの物事に夢中になるくらい注力したいと強く感じていました。そして、1年次に「経営学」や「マーケティング」、「経済学」といった様々な講義を履修する中で、ビジネスに関する幅広い知識やスキルを身に付けたいと思い、難関資格である「中小企業診断士」に挑戦するに至りました。

Q 中小企業診断士の試験に合格された今、どんなことを感じていますか？

A 精力強く継続して努力した結果、「中小企業診断士試験」に合格するという目標を達成できたことは素直に嬉しいです。しかし、あくまでも資格の取得は将来成し遂げたいことを実現するための手段であると認識しており、今後も自己研鑽に励みたいと考えています。

高校 バレーボール部

「春の高校バレー全国大会」で奮闘

高校バレーボール部は激戦の東京都予選を突破し、2023年1月4日～8日に東京体育館で行われた「春の高校バレー第75回全日本高等学校選手権全国大会」に出場しました。

2年ぶり13回目（選抜大会時代を含めると16回目）の出場となった本大会では、初戦から大接戦となり、劣勢の最終セットを大逆転で勝利しました。

続く2回戦では、今年度国体第5位の三重高校と対戦。エースの諸田亜美選手（3年）、田中咲樹選手（3年）を中心に、セッターの友田茉那選手（3年）が巧みにトスを振り分け、互角の戦いを演じました。リベロの川崎亜美選手（3年）もファインレシーブを連発し、一進一退の攻防を繰り広げましたが、惜しくも敗れてしまいました。

選手にとっては悔しい敗戦となりましたが、出場した全ての選手が活躍する「文京バレー」を象徴するような戦いを見せてくれました。

川崎亜美主将（3年）

コメント

入学当初から目標にしてきた春の高校バレーに出場することができて、とても嬉しかったです。2回戦敗退という結果で終わってしまいましたが、チーム全員で最後まで戦い抜くことができました。今まで指導してくださった先生方、支えてくださった保護者の方に少しあは恩返しすることができたかなと思います。たくさんの応援、本当にありがとうございました。

演劇部

「東京都高等学校文化祭放送部門朗読部門」で「第2位」

2022年11月、「第45回東京都高等学校文化祭放送部門 朗読部門」が開催され、梅野由葉さん（2年）が「第2位」となりました。芥川龍之介の『羅生門』の朗読を行いましたが、情景が浮かぶように日々練習した成果が実り、入賞することができました。

また、2023年8月に開催される「第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会（2023かごしま総文）」への出場が決定しました。今後は全国大会でも良い成績が残せるよう、練習に励みます。

梅野さんから、以下のコメントが寄せられました。

「私たちの部活は、今年初めて放送部門 朗読部門のコンクールに出場しました。今まで演劇部の活動として、歌や演技、ダンスしかしてこなかった私たちにとって『朗読』というものはまさに未知の領域でした。予選、決勝戦どちらもとても緊張し、不安でいっぱいでした。会場の練習室の教室では、周りから聞こえてくる自分とはレベルの違う朗読に焦りを覚え、それと同時に自分はこんなにすごい人たちと一緒に切磋琢磨しているんだ、という喜びを感じました。そして演劇部で培った表現を生かせるよう、『羅生門』の独特的な空気感を盛り込んで朗読をしました。このようにして出場した大会で「第2位」という結果を残すことができたのは、たくさん練習に付き合っていただいた先生方や、陰ながら応援してくれていた部員のみんなのおかげだと思います。来年度の夏には全国大会が控えているので、気を抜かずに、良い成績を収められるよう精一杯頑張りたいです」



梅野さん

1回戦 本校 2 (25-21, 17-25, 26-24) 1 郡山女子大学附属高校（福島）

2回戦 本校 1 (25-21, 21-25, 27-29) 2 三重高校（三重）



チーム一丸となって戦い抜いた選手・スタッフ・保護者一同

チアダンス部 大会で活躍

中高 生徒は冬季大会「第3位」

地区大会「第2位」で全国大会出場権獲得

2023年1月14日・15日、「Dance Drill Winter Cup 2023」（全国大会/武蔵野の森総合スポーツプラザ）、「USA Regionals 2023」（地区大会/駒沢オリンピック公園総合運動場体育館）が開催され、本校の中高チアダンス部生徒が出場しました。中学生は、土日に2日間連続の出場となりましたが、「Dance Drill Winter Cup 2023」では「第3位」、「USA Regionals 2023」では「第2位」で全国大会出場権を獲得しました。3月末には「USA Nationals 2023」が開催されます。今まで以上に練習を重ね、良い結果が出せるように部員が一丸となって進んでいきます。高校生は、日曜日に2大会をかけ持ちで出場し、大変ハードなスケジュールでしたが、部員が気持ちを合わせて練習の成果を発揮してきました。

普段の基礎練習では体幹を鍛えるトレーニングをメニューに入れていますが、12月からは新しくセラバンドを使用したメニューを加えました。全国大会に出場し、入賞していくには、ターンをしても軸が崩れない体幹の強さが必要です。また、瞬発力や、高い身体能力が求められます。今後も、日々の基礎練習を大事にしながら、継続して高い目標に向かって力強く進んでいきます。



中学生メンバー



高校生メンバー



まちづくり研究センター(略称:まちラボ)では、人間学部コミュニケーション社会学科の「まちラボプロジェクト演習/実習」の授業を通して、さまざまな地域連携イベント・プロジェクトを実施しています。

大学 「まちあるきコースMAP」を制作し無料配布中

人間学部コミュニケーション社会学科では「まちラボプロジェクト演習」(本担当:貫井万里准教授)の一環として、文京まちあるきコースづくり「文京区の魅力の発見と発信」プロジェクトを実施。2022年度は、同学科の3年生14名が文京区内のさまざまな場所を訪ね、新規で発見したお店や普段から利用する施設、観光スポットの魅力を取材し、「リフレッシュコース」「まんぶくコース」「Café & Sweetsコース」の3つのコースMAPを作成しました。完成した各1,000部の冊子は、本郷キャンパス「まちラボ」で配布するとともに、本MAP上で紹介した場所や施設等で無料配布されています。

また、本冊子の取材協力先とのイベントとして、2022年12月15日、「ZAKUROらんが家」ご協力のもと、「手作りガラス細工クラフトワークショップ」も開催されました。イベント当日は、学生とご招待客など合わせて15名がキャンドルホルダー作りに取り組みました。

学生は、今後も地域との交流を増やし、地域活性化の一助となるような取り組みを実施していきます。



『リフレッシュコース』

文京区内で様々な観点から非日常の別世界を味わえる場所、日頃の疲れを癒してリフレッシュできそうな場所が紹介されたコースになっています。



『まんぶくコース』

おいしく量もたっぷりで元気が出そうなら店舗を厳選して掲載しています。「まんぶくコース」の裏テーマは「プロレス」。プロレスの聖地である後楽園の周りには、レスラーやプロレスファンの集うお店がたくさん存在し、ファンも納得のコースになっています。



『まんぶくコース』表紙とお店・施設紹介ページ

大学 「赤羽中央街商店街魅力探究プロジェクト」感謝状授与と報告会の実施

人間学部コミュニケーション社会学科岩館豊助教のゼミに所属する4年生10名が、「まちラボプロジェクト実習」において、東京都北区赤羽にある中央街商店街と連携し、地域社会における商店街空間の魅力を探求・発信する「赤羽中央街商店街魅力探究プロジェクト」に取り組みました。

春から夏にかけて、商店街の各店主さんへのインタビュー調査を重ね、魅力を発信するビジュアルブックを制作しました。また、商店街の魅力を地域の子どもたちにも知ってもらうべく、ハロウィンイベントを実施したところ、予想を超える来場者があり、盛況となりました。こうした活動に対して、その企画力と実行力が評価され、北区商店街連合会および赤羽中央街商店街振興組合より感謝状が授与されました。

また、2023年1月12日に、赤羽中央街商店街振興組合の尾花秀雄代表理事らを招いて本郷キャンパス(まちラボ)で開催された「プロジェクト報告会」では、メディアからの取材を受けるなど、取り組んだ学生たちも手応えを感じていました。

プロジェクトリーダーの宗像隼彦さん(人間学部コミュニケーション社会学科4年)から、以下のコメントが寄せられました。

「このプロジェクトを行うにあたり、多くの方々に支えられたと思います。また、ゼミで取り組んだことで、チームで行動するという、今後社会で必要な能力を身に付けることができました。私たちを快く迎えてくれた赤羽中央街商店街の方々にも感謝申し上げます」



感謝状を授与された学生代表・宗像さん(右) ハロウィンイベントでの集合写真 前列右:岩館助教 前列右から2番目:尾花代表理事

大学 「まちラボ×「VaLerio Luana」非常食アレンジフードを学生が「防災カフェ」で披露

2022年11月24日・12月8日の2日間、「まちラボプロジェクト演習」(本担当:岩館豊助教)の一環として、人間学部コミュニケーション社会学科の3年生が文京区白山にあるカフェ「VaLerio Luana」と連携し、「防災カフェ」を企画・実施しました。

2022年8月の「向丘・白山こどもまつり」に参加したことをきっかけに、地域とつながる企画を学生たちが模索し、向丘・白山地域の住民や自治会の方への聞き取りから、「防災」という課題が見えてきました。そして、「災害時だからガマンする」ではなく、「災害時だからこそ温かくて栄養のあるものを食べられるようにする」という考え方を学びながら、乾パンなどの非常食をアレンジしたメニューを考え・紹介する「防災カフェ」のイベント実施へと辿り着きました。

イベント当日は、他学部の学生や白山地域で働く方々など、2日間で合計16名が参加しました。「防災」という課題を共有しながら、非常食を通して地域の方々と交流する有意義な場となりました。



学生たちが考案した非常食をアレンジしたメニュー



イベントを運営した学生たちと岩館助教(後列)、カフェ店主(右から2番目)

大学 ふじみ野市×人間学部生“社会的課題を心理学とアプリで解決”第2弾 「キエ一口がフェ一口」プロジェクトでアプリをリリース

「社会的課題を心理学とアプリで解決」をテーマとした研究を行う、人間学部心理学科の永久ひさ子教授と心理学科3年生10名による第2弾研究となる、埼玉県ふじみ野市との官学連携プロジェクト「キエ一口がフェ一口」が始動しています。

本プロジェクトは、ふじみ野市環境課がごみの減量にむけて取り組み、土の中にいるバクテリアの力をを利用して生ごみを消してしまう生ごみ処理容器「ベランダdeキエ一口」の導入促進に向けた官学連携のプロジェクトです。

学生たちは、ふじみ野市担当者からキエ一口の仕組みを教えてもらい、実際に学食でたの野菜屑で実験を行い、週間後に土に還っているのかの検証も実施しました。

また、「ベランダdeキエ一口」の利用が広まらない原因や問題点についてディスカッションを行い、心理学で学んだ知識を活かしてその解決策を考え、順次、実施しています。その一つとして1月には、キエ一口をインテリア風に白く塗装し、絵を描いた黒板を取りつけ、園児を招いてお絵描きを楽しんでもらいました。2月には、キエ一口についての情報交換や、黒板に描いた絵の発表・投稿を行ったため、写真投稿アプリ「キエ一口ATふじみ野市×文京学院大学OBOG」を開発し、リリースしました。関心のある方は是非アプリに参加してみてください。

今後も、キエ一口の利用促進のために官学連携で様々な取り組みを行っていきます。



アプリ
ダウンロードは
コチラから!!



学生の活動が
みられます!
TikTok公式アカウント
「[公式]文京学院大学」



大学 「新潟県長岡市国際交流フィールドトリップ」初開催

2022年12月24日~26日、新潟県長岡市国際交流課と協働で2泊3日のフィールドトリップが実施され、希望者の中から選抜された10名の学生(外国語学部8名・人間学部1名・保健医療技術学部1名)が参加しました。新潟県長岡市は、学園都市として留学生が多く住むだけでなく、外国人市民の受け入れにも意欲的であり、地球広場、ほんご広場で国際交流も積極的

に行っています。本学でも、昨年度より同市とオンラインによる複言語交流会を行っており、その関連イベントとして、今回、実際に現地に学生を派遣して地域連携と国際交流を実践するというツアーガ企画・実施されました。本プログラムに参加した保健医療技術学部作業療法学科1年の佐山幸菜さんによる現地レポートを、以下にご紹介します。

1日目は、長岡市の国際交流センターである地球広場へ向かいました。その後訪れた「江口だんご 摂田屋店」では、長岡市の名物であるお団子や、おはぎを美味しいいただきました。また、「ほんご広場」主催の「年賀状を書いてみよう」に参加し、長岡市在住の外国人の方々と一緒に年賀状を書き、お互いの地域の文化などについて会話をし、貴重な交流をしました。

最終日の3日目は、「NaDeC BASE」「USEN SQUARE NAGAOKA」を訪問し、長岡市のリモートワークオフィスに行き、お話を聞くことができました。また、地球広場で「長岡の暮らしを考える」をテーマとした発表を行いました。学生は、今回の経験だけでなく、それぞれが大学で身についた知識などを活用した発表を行い、有意義な国際交流の旅の締めくくりとなりました。



大学 倉嶋ゼミ「卒業制作展」開催

2023年1月11日~2月28日、経営学部でイメージリテラシーを研究する倉嶋正彦教授のゼミナールに所属する4年生10名の「卒業制作展」が、本郷キャンパスS館にて開催されました。

倉嶋ゼミでは、学生の自由なテーマ設定のもと、それを実際に視覚化・作品化することを目的に活動しています。2022年度の卒業制作は、全て「インフォグラフィック」を課題とし、学生が個々にテーマを考え、資料・情報収集・情報の分析と精查・構成・デザイン表現の構築と制作に取り組みました。生活の中で必要とされる睡眠についての作品や、高額と噂される結婚式の費用についての作品など、身近な疑問の解決などを視覚化したデザインの数々



高校 3年ぶり「タイ科学交流プログラム」現地にて実施

本校は2012年にSSHの指定を受けたことを契機に、タイ王国「プリンセス・チュラポーン科学高校・ペッチャブリー校」(以下PCSHS-P校)と教育提携を結びましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で互いに両校を訪れる機会が設けられませんでしたが、この度3年ぶりにタイへ生徒が派遣されました。

2022年12月17日～26日の10日間、本校理数キャリアコース在籍の2年生10名が現地を訪問し、交流しました。科学交流として、両校教員や大学教授による授業・実験、水質環境センターや食用昆虫ファームの見学など、生徒たちは多くの経験をしました。また、「墨を用いて紅の緑色光沢を生み出す伝統的な手法の解析」や「植物精油はアリを忌避できるか?」などのテーマで研究発表を行い、質疑応答や意見交換を経て理解を深め、次のステップを見出していました。互いに母国語ではない「英語」での交流

でしたが、日に日にコミュニケーションが円滑に進むようになり、国境を越えた友人と築いた絆は今後の人生の大きな糧となるはずです。

次回は、4月18日～24日の期間で、本校にPCSHS-P校より生徒・教員をお迎えする予定です。理数キャリアコースだけでなく、国際教養コース、スポーツ科学コースとの交流も計画中です。全校を挙げて、おもてなしの心でお迎えしたいと思います。



講堂前の集合写真



ポスターセッションを行う生徒



授業シーン

高校 「TJ-SIF2022」 高校2年生2名がICT分野の研究を発表

「TJ-SIF」とは、タイと日本との文化科学交流を目的として、SSH指定高等学校や高等専門学校の生徒がタイを訪問し、ICT/IoT分野の研究発表を行うイベントで、4年に1度、12校ある「プリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール」を巡り、開催されます。

今回は、2022年12月20日～24日に、タイ北部にあるチェンライ校で実施されました。タイと日本の精鋭たちが集う中、本校からは高校2年・理数キャリアコースの石渡日菜さん(2梅)と工藤千佳さん(2梅)が、「One way to protect children from internet crime-AIを用いた手書き文字認識」のタイトルで研究発表に臨みました。期間中にタイの首相をはじめ多くの閣僚も臨席されるなど、タイが国を挙げて取り組むイベントです。日本から多数の学校が参加しましたが、実は本校はタイとの科学交流に日本で最初に名乗りをあげ、成果を挙げてきたという実績もあります。質、規模ともに圧倒的で、ここに参加して『世界』を体感できたことは幸運なことでした。



「TJ-SIF2022」開会式



研究発表を行う工藤さん(左)と石渡さん(右)

中高 ソフトテニス部 東京私立中学新人選手権大会「第1位」「第4位」

2022年11月13日～27日、「第38回東京私立中学校新人選手権大会」が大妻中野会場で開催され、関根瑠美さん(1桃)・吉田遙さん(1菊)ペアが「第1位」、田中凪さん(2栗)・桑原花菜子さん(2桃)ペアが「第4位」に入賞しました。本大会は、中学3年生が引退した後初めて行われた、東京都の私立中学に参加権のある大会です。「第1位」となった関根・吉田ペアは決勝でもストレート勝ちを収めるなど、圧倒的な強さで勝ち進みました。2人はジュニアとしてソフトテニスを始め、本校に入学すること決めた時からペアを組み始めました。2022年の秋に行われた都大会でもベスト16入りを果たしており、東京都の強化研修会にも招集されています。「第4位」の田中・桑原ペアは本校入学後からソフトテニスを始め、立派な戦いを見せると共にチームを支えています。

同大会で優勝経験のある伊東李々花さん(2梅)を中心とする高校生チームも都团体ベスト16入り、第8シードを獲得するなど、中高ともに更に活躍が期待できます。

中高一貫の強みを活かし、全員で切磋琢磨してまた吉報を届けたいと思います。



「第1位」の関根さん(右)・吉田さん(左)ペア



「第4位」の田中さん(左)・桑原さん(右)ペア

大学 全盲和太鼓奏者・片岡亮太氏による特別講演・演奏会を開催

2023年1月11日、ふじみ野キャンパスにて、全盲和太鼓奏者で社会福祉士の片岡亮太氏をゲストに迎え、「『当たり前』から飛び出そう!～ニューヨークがくれた出会いと覚悟～」というテーマで、人間学部国際交流委員会主催の講演会兼演奏会が開催されました。本イベントは、「市教委」と言う冊子に掲載された片岡氏の「色彩を重ねて」という記事をきっかけに、本学の対人援助職を目指す学生に聞いてほしい、という想いから企画を打診し、開催に至りました。学生は、児童発達学科をはじめ人間福祉学科、心理学科、作業療法学科など、100名を超える学生が参加、聴講しました。

講演は、タイトル通り、渡米して「障害者」に対する考え方の違いに気づいたこと、見えなくて危ない時には知らない人でも気軽に注意してくれる、といった人との関わり方や距離感に驚いたことなど、ご自身の経験談から「当たり前」は当たり前ではないことを語っていただきました。

また、和太鼓の演奏ではパートナーのホルン奏者山村優子氏とのコラボも聴けて、「見えない」というハンデを感じさせない迫力のある演奏に釘付けになりました。

知らない間に日本社会の中で植え付けられてしまう恐れのある、障害のある人に対する「差別」的な考え方や意識を、明日を担う大学生にはグローバルな視点をもってぜひ変えてほしい、という強いメッセージをしっかりと受け止めることができた貴重な機会となりました。



BOOK INTRODUCTION 書籍紹介

『斎藤茂吉の人間誌』



著者:小泉博明(外国語学部教授)/彩流社(2022年12月)
／3,300円(税込)

大学 「アートフェスタふじみ野2022」3年ぶりの対面開催

2022年12月17日・18日の2日間、音楽とアートの祭典「アートフェスタふじみ野2022」が、「届けよう世界へ 愛と平和をアートの力で」をテーマに、ふじみ野市の産業文化センター、ステラ・インストのホール棟並びに多目的棟、イオンタウンふじみ野ヒマラヤ杉公園横特設会場の4会場で行われました。昨年、一昨年はオンライン配信であったため、今回は3年ぶりの対面開催となりました。

本イベントは、アートフェスタふじみ野2022実行委員会が主催、ふじみ野市が共催となっています。クラシックコンサート、歌、演奏、ダンス、ショートドラマ等のライブパフォーマンス、アート・ワークショップ、展示会など、過去最多の40企画が実施されました。本学は2017年から実行委員会に参加し、教員や学生の協力でこの事業を盛り立ててきました。今年は、「小林剛史（人間学部心理学科教授）&渡辺准（人間学部児童発達学科准教授）によるフルートとピアノDuo」、「Let's enjoy!～音楽の楽しさを再び!～（本学吹奏楽部）」、「大学生と楽しもう!屋台紙芝居&古着リメイクワークショップ（まちラボふじみ野）」の3企画を実施し、また3名の学生が運営スタッフとして参加しました。当日は、久しぶりの対面開催ということもあり、親子連れなど多くの市民が来場し、鑑賞や体験を楽しむ盛大な催しとなりました。



紙芝居やワークショップを実施した学生たち



演奏を披露する渡辺准教授（左）と小林教授（右）



吹奏楽部の学生たちによる演奏

大学 「文京エコ・リサイクルフェア」に学生がブース出展

2022年11月23日、文京シビックセンターで「第21回文京エコ・リサイクルフェア」（主催：文京区）が開催され、人間学部コミュニケーション社会学科環境ゼミ（指導教員：中山智晴教授）に所属する4年生4名が、海洋汚染問題に関するブースを出展しました。学生4名は、海洋プラスチックごみの削減を目的に研究を行っており、海洋環境や海ごみになる過程、ごみのポイ捨て問題などについて正しく知ることで、環境意識の改善につなげもらうことを目指して活動しています。

イベント当日は、「ビーチクリーンを通した海洋保全～あなたの行動が海を変える～」をテーマにしたパネルや、環境問題を考える手作りカルタ、海洋プラスチックを使用した手作りアクセサリーの他、子ども向け環境問題理解のための小冊子なども展示し、ブースを訪れた100名を超える来場者と一緒に海洋問題の現状について考える機会を提供しました。

本ゼミ長の立野佑将さん（人間学部コミュニケーション社会学科4年）のコメントを以下に掲載します。



運営学生4人と中山教授（後列）

「イベント当日は本学のブースも賑わいを見せ、多くの方々とお話しをさせていただきました。来場者の中には家族連れでブースに訪れ、手作りアクセサリーを『家族で作りたいから作り方を教えて欲しい!』と言ってくださった方が多く、展示品を通して『きれい!』『楽しそう!』など、ちょっとした興味から多くの方に環境問題について考えていただけました。本イベントを通して、自分の行動や意識を見つめ直すきっかけの場になっていたら嬉しいです。ありがとうございました。」



展示物の説明を行う学生たち



展示された海洋プラスチックと海洋プラスチックを使用した手作りアクセサリー

大学 「GLOBAL BLUEHANDS PROJECT」留学生による藤沢市への成果報告会を実施

2022年11月21日、神奈川県藤沢市と連携して実施した産官学国際連携教育プログラム「GLOBAL BLUEHANDS PROJECT」の成果報告会が、藤沢市役所にて実施されました。当日は、本プログラムに参加した留学生のうち代表者8名が発表を行い、藤沢市の宮治正志副市長のほか、藤沢市の関係者に向けて、今回の訪問で感じた藤沢市の魅力などについて日本語で報告しました。また、外国人観光客の視点で、今後の藤沢市のインバウンド需要に対する観光施策としてのアイデアも提案され、活発な意見交換が行われました。

さらに、本プロジェクトリーダーである人間学部心理学科の小林剛史教授が、参加学生に対して実施したアンケートを基に、今回のプログラムに参加する前後で、幸福感・自然環境や持続可能性・藤沢市への興味の意識など、自身の考え方や心境にどのような変化が生じたか、について心理学的観点から分析を行った結果と、プロジェクトの実施による藤沢市のブランドイメージへの影響などについても報告が行われました。

今後、本学と藤沢市は協定締結を進め、様々なプログラムを展開していきます。



宮治副市長（前列左から4番目）と関係者



藤沢市の魅力を伝える留学生

ひたむき・まえむき・おもむき
tomoちゃん
第87回
画：美術部（高校）k.m.

